

特集

協働のまちづくり

5月4日から放送したケーブルテレビの市政情報番組『ハイ、市長です』で、花里まちづくり協議会の門前会長と一之宮町まちづくり協議会の田邊会長が「協働のまちづくり」をテーマに市長と対談しましたので、その内容を紹介します。



写真左・花里まちづくり協議会 会長
門前 庄次郎 さん

写真右・一之宮町まちづくり協議会 会長
田邊 重敏 さん

協働のまちづくりとは

地域には市民の皆様をはじめ、町内会や学校、事業者などさまざまな団体があります。それらがお互いの持てる力を発揮し、ともに手を携えて、地域の課題解決に取り組み、住みつづけたい地域をつくるための取り組みのことです。

取り組む組織(=まちづくり協議会)は高山地域はおおむね小学校区単位、支所地域は支所単位で市内に20の組織が設立されています。

市では、まちづくり協議会に総額2億5千万円の支援金を交付するほか、まちづくり担当職員の配置や事務所の提供など、地域の皆様と協働してまちづくりに取り組みます。

問合先 市民活動推進課 ☎35-3412

—最初に、協働のまちづくりに向けた市長の思いをお聞かせください。

市長 まず、市政の主人公は市民の皆様ですし、地域のことを詳しくご存じなのも市民の皆様です。したがって市民の皆様が地域の課題と解決策に向けて主体的に活動されるのが大事だと思います。もちろん市も協力して一緒に取り組んでいきながら、住みつづけたいまちをともにつくっていきましようということです。

モデル地区の取り組み

—モデル地区として花里と一之宮は先行実施されました。まずはそのあたりを振り返ってください。



門前会長 正直大変だなと思いましたが、市から提案がある前から花里では「ガヤガヤ会議」という場を設けていました。地区の役を受けている方の会議でなく、誰でも参加できる場です。そこで「花里をもっとこうしたいよね」という思いをみんなが話合ってきました。これが基